

## めざそう値の指標解説

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
1	市民活動（地域活動、NPO活動、ボランティア活動など）に参加している人の割合	市民意識調査による。「日頃積極的に参加している地域貢献活動団体」という質問に対して、「町会・自治会」、「ボランティア団体」、「PTA」、「NPO法人」、「子ども会育成会」、「企業による奉仕活動」、「その他」と回答した割合。	町会・自治会活動への参加率やNPO法人での活動が増えている傾向も見られる。後期基本計画の最終年度では40%をめざす。
1	市が協働する事業件数	協働推進課「市民と行政との協働による事業実態調査」による。	市民等との協働の取り組みが、現状よりも80件程度増えることをめざす。
1	NPO法人の数	千葉県NPO情報ネットホームページによる。松戸市内で活動している、県知事認証（主たる事業所が松戸市内にある団体）及び内閣府認証（主たる事業所が松戸市内にある団体）のNPO法人の数。	法人の増加は想像できるが、NPO法人法が改正となり組織の存続要件が厳しくなることを考えると、消滅団体が増えることも想定されるため、現状の3割程度の増をめざす。
1	中間支援分野で活動している団体の割合	「市民活動団体アンケート調査」による。「どのような分野の活動をしていますか」という質問に対して、「団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動（中間支援団体）」と回答した割合。	団体の4分の1、25%が中間支援分野の活動に取り組んでいる姿をめざす。
2	身の回りで人権が守られていると思う人の割合	市民意識調査による。「あなたの身の回りでは人権が守られていると思いますか」という質問に対して、「人権問題は特にない」と回答した割合。	平成19年6月に内閣府が実施した「人権擁護に関する世論調査」において、「人権を侵害されること」について、「多くなってきた」と答えた人の割合が(42.0%)のため、それを除いた数値をめざす。
3	固定的性別役割分担を支持しない人の割合	市民意識調査による。「『男は仕事、女は家庭』という考え方に同感する方ですか」という質問に対して、「同感しない」と回答した割合。	さらに伸びることを期待し、市民の半数(50%)に達することをめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
3	女性の就業割合	市民意識調査による。20～64歳の女性で職業を、「会社員」、「公務員」、「自営業」、「アルバイトやパート」と回答した割合。	就労を希望する女性が約8割(79.2%)※であることから、現状から毎年1%上昇することをめざす。(※女性センター「男女共同参画社会に関する市民意識調査」(平成18年度))
4	生きがい感を持っている人の割合	市民意識調査による。「あなたは日頃、生活の中で生きがいを感じていますか」という質問に対して、「大変感じている」、「かなり感じている」、「ある程度感じている」と回答した割合。	少子高齢化が進展し、高齢者の社会構成割合はますます増加していくため、平成13年度実績値に戻すことをめざす。
4	本人が健康であると思う人の割合	市民意識調査による。「あなたは今、健康だと思いますか」という質問に対して、「非常に健康だと思う」、「健康な方だと思う」と回答した割合。	高齢化の進展により、健康不安感が高まる傾向にあると推測されるが、関係機関等との連携により、70%をめざす。
4	健康づくりに関する講座やイベントへの参加者数	保健福祉課資料による。	高齢化の進展も鑑み、平成18年度から21年度の増加率を基に1,400人の参加者数をめざす。
4	ホームドクター(かかりつけ医)を持つ人の割合	「松戸市地域保健医療計画」中間評価のための市民アンケート調査による。	「松戸市地域保健医療計画」中間評価のための市民アンケート調査における上昇率を基に65%をめざす。
4	多様な世代と交流する機会のある人の割合	市民意識調査による。「多様な世代との交流の満足度」という質問に対して、「十分満足している」、「まあまあ満足している」と回答した割合。	10人に1人が、多様な世代と交流する機会があることをめざす。
5	日常生活に対して不安を感じていない人の割合	市民意識調査による。「生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか」という質問に対して、「特にない」と回答した割合。	32年度まで、現状を維持することをめざす。
5	地域包括支援センター・在宅介護支援センター相談件数	地域包括支援センター及び在宅介護支援センターへの相談件数の実績値による。	平成18年度～21年度の伸び率を基に29,000件の相談件数をめざす。
6	子育ての満足度	市民意識調査による。「生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか」という質問に対して、「出産や子育て」を選ばなかった割合。	平成13年度より、比較的高い数値を維持しており、平成21年度実績値と同じ数値をめざす

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
6	就労希望はあるが保育サービスが利用できないため就労していない人の割合	「松戸市次世代育成に関する調査報告書」による。	後期次世代育成支援行動計画において、通常保育事業(認可保育所)の利用の伸び率を平成22年から26年において2.0%と試算している。通常保育事業(認可保育所)の利用のシェア増加傾向も指標値向上の要因となりうるものとする。一方で、就労環境改善やその他子育て支援サービス等、他の要因を試算に含め数値の設定根拠とし、5%をめざす。
6	合計特殊出生率	千葉県健康福祉部健康福祉指導課資料による。	政策調整課「松戸市人口推計」(平成21年1月)に基づいて設定し、1.33人をめざす。
7	患者満足度	病院事業管理局経営改革課「患者満足度調査(入院)」による。「家族や友人への推薦」、「医師の診察・診療内容」、「看護師の看護や対応」の平均満足度。	平成25年度で目指す60%台の顧客満足の維持をめざす。
7	平均在院日数	市立病院医事課資料による。	公立病院改革プランによるシミュレーションにより設定し、11.5日をめざす。(年度評価による見直しがある)
7	紹介・逆紹介率	市立病院医事課資料による。	地域医療支援病院承認要件である紹介率60%、逆紹介率30%以上維持をめざす。
7	一般病床利用率	市立病院医事課資料による。	市立病院経営において、損益分岐点を超えるためには、本指標が90~92%以上になっている必要がある。また、急性期病院として常に10%程度の余裕ベッドを確保しておく必要があるため90%をめざす。
7	年間手術件数	市立病院医事課資料による。	年間手術件数は約4,000~4,500件で推移している。手術室稼働率やコスト削減のための改善の取り組みと併せ、現行の病院機能の受け入れ可能数として最大値であるH16年度の4,550件をめざす。
7	経常収支比率	病院事業管理局経営改革課資料による。	繰入金が増減が医業収益と連動するため、政策医療分の繰入金を含めた経営視点から、経常収支比率100%をめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
8	目標をもって学校生活をしている児童生徒の割合	教育研究所「児童生徒の学校生活に関する調査」による。「総合充実度」の割合。	平成13～21年度(5回実施)の平均値から、微増になるとし、75%をめざす。
8	授業が楽しいと感じている児童生徒の割合	教育研究所「児童生徒の学校生活に関する調査」による。「授業に対する満足度」の割合。	平成13～21年度(5回実施)の平均値から、微増になるとし、65%をめざす。
8	学校での「心の豊かさ」を育む体験活動の実施回数	教育課程の報告による。「福祉教育」「環境教育」の実施回数。	限られた授業時間数の中で学習指導内容が増える一方で、「心の豊かさ」を育む体験活動が縮小されていくと予測されるが、平成21年度の現状値から、毎年10回ずつ増やし、2,000回をめざす。
9	学習活動を行っている市民の割合	市民意識調査による。「あなたは日頃、特定の関心があるテーマについて、自主的に学習活動をしていることがありますか」という質問に対して、「ほぼ毎日」、「週に数日ほど」、「月に数日ほど」と回答した割合。	市民の半数(50%)が行っていることをめざす。
9	学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合	市民意識調査による。「あなたがこれまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると思いますか」という質問に対して、「活かされている」と回答した割合。	平成19年度、22年度の目標値75%をめざす。
9	目的をもって部活動をしている児童生徒の割合	保健体育課「児童生徒の部活動の加入率」による。	現状値が比較的高い加入率なので、平成21年度の現状値からの緩やかな上昇を見込み、90%をめざす。
9	スポーツを行なっている市民の割合	市民意識調査による。「あなたは日頃、運動・スポーツをしていますか」という質問に対して、「現在も継続的にしている」、「最近、始めた」と回答した割合。	市民の2人に1人が継続的にスポーツ活動を行うことをめざす。
10	史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度	市民意識調査による。「史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度」という質問に対して、「十分満足している」、「まあまあ満足している」と回答した割合。	ほぼ現状維持をめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
10	文化・芸術に親しむ市民の割合	市民意識調査による。「あなたは日頃、絵画、音楽、映像、演劇などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践することがありますか」という質問に対して、「鑑賞し、自分でも創作や実践もしている」、「よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない」、「時々鑑賞している」と回答した割合。	ほぼ現状維持をめざす。
10	外国籍市民と交流している人の割合	市民意識調査による。「あなたは日頃、松戸市に在住したり、滞在したりしている外国の方達と親しく接することがどのくらいありますか」という質問に対して、「大変よくある」、「しばしばある」と回答した割合。	最高実績値に戻すため、年0.1ポイント程度の増加をめざす。
10	外国人市民で暮らしに満足している割合	国際交流担当室「松戸市における外国人市民生活アンケート」による。	21年度に対し2ポイント程度の増加をめざす。
10	世界平和都市宣言の認知度	平和事業参加者へのアンケートによる。松戸市が世界平和都市宣言をしていることを知っている人の割合。	第3次実施計画において、平成20年度は49.0%、平成21年度は50.0%、22年度は51.0%を目標値として設定した。上限を60%と設定し、今後も引き続き、毎年1ポイントの増加をめざす。
11	災害に対して自ら対策を講じている人の割合	市民意識調査による。「あなたは日頃、防災のための準備をしていますか」という質問に対して、「対策を講じている」と回答した割合。	平成21年2月に内閣府が行った「防災に関するアンケート調査」の(2)地震に関する意識②大地震に備えた対策で、「特に何もしていない」「わからない」と答えた人の割合の合計が25.6%なので、それを除いた割合を上回ることをめざす。(なお、対策を講じていない人の中には、障害があって対策を講じることができない人や、財政的に対策を講じることが困難な人も含まれると考えている。)

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
11	総合防災訓練への対象団体の参加率	防災課資料による。参加団体÷対象団体×100(対象団体とは、防災訓練の際に参加依頼をする団体)	常に100%をめざす。
11	自主防災組織の訓練実施率	防災課、消防局予防課資料による。(出前講座等の座学を含む)	年に1ポイント、自主防災組織の訓練実施率を増やすことをめざす。
11	自主防災組織の結成率	防災課資料による。	常に100%をめざす。
12	出火率(火災件数/対人口1万人)	消防局予防課資料による。火災件数/対人口1万人	人口が増加すれば火災件数は、比例して高くなる傾向にあるが、火災件数を抑えることにより昭和35年以降、最も低い値であった21年の2.4を上回らないことをめざす。
12	住宅用火災警報器の設置率	消防局「住宅用火災警報器の普及調査」による。	過去4年間の新築住宅世帯数の平均値が2.22%の為、11年後は24.42%増加する。残りの6.38%は、11年間の普及活動によりめざす。
13	心肺停止傷病者の1ヶ月生存率(1ヶ月生存者数/心肺蘇生実施者数)	消防救急課救急担当室資料による。「救急隊員の行った心肺蘇生率」の割合。	平成18年実績値をめざす。
13	救急入電から医療機関に収容するまでに要する時間	消防局資料による。	平成20年実績値をめざす。
14	温室効果ガス削減量(CO <sub>2</sub> 換算)	環境計画課減CO <sub>2</sub> 担当室「松戸市減CO <sub>2</sub> 大作戦」による。国・県等の統計データを活用し、松戸市全体の温室効果ガス排出量をCO <sub>2</sub> 換算で算定した。	松戸市減CO <sub>2</sub> 大作戦の中期目標達成に必要なCO <sub>2</sub> 削減量を計算したものとし、446,800tをめざす。
14	廃棄物の最終処分量	環境計画課資料による。	松戸市ごみ処理基本計画で目標値として設定した11,000tをめざす。
14	二酸化窒素の環境基準達成率	市内の大気常時監視測定局4局のデータによる。	市民・事業者および市が協働して資源の浪費を可能な限り少なくし、大気環境を向上させ、全局の環境基準値達成をめざす。
15	刑法犯認知件数(対1千人)	千葉県警「犯罪統計」による。	6,500件×1,000人/500,000人=13.0件 指標である認知件数の減少傾向を勘案し平成21年度より約6%の減少をめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
15	防犯用品貸与団体数	5人以上で防犯活動を行う者に対し、松戸市防犯用品貸与要綱に基づき、防犯用品を貸与しており、その貸与団体の累計数。	現状値に対し11%増を見込んで設定し、320団体をめざす。
15	交通事故による死傷者数(対1千人)	千葉県警「交通事故統計ちば」による。	$2,000 \text{ 人} \times 1,000 \text{ 人} / 500,000 \text{ 人} = 4.0 \text{ 件}$ 指標である交通事故による死傷者数の減少傾向を勘案し平成21年度より約8%の減少をめざす。
15	交通事故の発生件数(対1千人)	千葉県警「交通事故統計ちば」による。	$1,750 \text{ 人} \times 1,000 \text{ 人} / 500,000 \text{ 人} = 3.5 \text{ 件}$ 指標である交通事故発生件数の減少傾向を勘案し平成21年度より約5%の減少をめざす。
15	消費者トラブルに巻き込まれた人の割合	市民意識調査による。「あなたは、この1年間に買い物などの消費の際にトラブルや被害にあったことがありますか」という質問に対して、「トラブルや被害に巻き込まれた」と回答した割合。	消費者トラブルには様々な側面があり、一定の割合で発生するものと思慮するが、中長期的には、情報提供等で注意を喚起し自立した消費者を増やすことでトラブルに巻き込まれてしまう消費者の減少をめざす。
16	緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合	市民意識調査による。「緑地・河川などの自然環境の満足度」という質問に対して、「十分満足している」、「まあまあ満足している」と回答した割合。	4人に1人が満足することをめざす。
16	里やまボランティア活動団体数	みどりと花の課資料による。	里やまボランティア活動の成果として、土地所有者及び関係者の理解を得た樹林地から、市民緑地等による公開をめざす。 (12団体+1団体×11年=23団体)
16	花いっぱい運動活動団体数	みどりと花の課資料による。	花いっぱい運動の成果として、多くの市民が関わる、花であふれたまちなみが、地域の宝物となることをめざす。(毎年、加入団体数を3団体として考えている。 68団体+3団体×11年=101団体)
16	公園緑地活動団体数	公園緑地課資料による。	今までの実績値から毎年度3団体の増加をめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
16	身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合	市民意識調査による。「あなたは、身近で街路樹や緑地が守られ、増えていると感じていますか」という質問に対して、「守られ、増えていると感じている」と回答した割合。	生きものやみどりと共に暮らすために、みどりの市民力による協働事業を更に推進し、豊かで潤いのある生活ができるまちをめざす。意識指標として現状値の3倍をめざす。
17	快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合	市民意識調査による。「まちの賑わいや買い物の便」「通勤・通学などの交通の便」「道路、公園、下水道などの都市施設」「特色ある祭りや地域ぐるみのイベント」の4項目の総合満足度を算出し、「十分満足している」と「まあまあ満足している」を合計した割合。	起点値から考えて、市民の2人に1人が感じられるようにすることをめざす。
17	商業の年間商品販売額	千葉県「平成19年商業統計調査」による。	松戸市は、平成13年の千葉県の商圏の位置づけでは準商業中心都市であったが、平成18年では単独商圏都市となった。将来めざす方向として、準商業中心都市に戻すため、32年度には、平成13年当時の年間販売額をめざす。
17	製造品出荷額	千葉県「工業統計調査」による。	経済の回復予想がつかない中で、現状値の10%減を維持することをめざす。
17	農用地利用権設定面積	農政課資料による。	農地利用集積円滑化事業による遊休農地と荒廃農地解消事業を推進し、平成17年から平成21年の農地利用権設定面積の平均値を超える設定面積をめざす。
17	松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合	市民意識調査による。「あなたは日頃、松戸の良さを他の人に伝える活動をしていますか」という質問に対して、「日常的にしている」、「ときどきしている」と回答した割合。	現状値から年1ポイント程度の増加を期待した値をめざす。
17	主要観光スポットの観光客数	商工観光課資料による。	21年度に対し約10%増をめざす。
18	新規求人倍率(松戸市内)	ハローワークまつど「市町村別資料」による。	求人求職のバランスのとれた状態をめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
18	65歳以上の完全失業率	国勢調査による。労働力状態(松戸市)の失業率の割合。	平成12年度の水準に戻すことをめざす。
18	20歳代の就業率	国勢調査による。労働力状態(松戸市)の20～29歳までの就業率の割合。	平成12年度の水準に戻すことをめざす。
18	就業者数	国勢調査による。労働力状態(松戸市)の労働力人口中の就業者数。	松戸市設定人口の15歳以上(451,053人)に、平成17年度の実業率を乗じた値をめざす。 $451,053 \times 57.26 = 258,272$
18	障害者法定雇用率を達成している企業の割合(松戸市内)	松戸公共職業安定所「市町村別の雇用状況」による。	過去10年間(平成12年度～21年度)の最高値(H15)をめざす。
18	障害者法定雇用率を達成している企業数	松戸公共職業安定所「市町村別の障害者雇用状況」による。	21年度に対し約20%増をめざす。
19	安心やゆとりを感じている人の割合	市民意識調査による。「保健・医療・福祉サービス」「緑地・河川などの自然環境」「空気のきれいさ、騒音・悪臭などの公害の少なさ」「まち並み、建物などまち全体の景観」「住環境のゆとりなどの住宅事情」「事故や災害に強い安全なまち」の6項目の総合満足度を算出し、「十分満足している」と「まあまあ満足している」を合計した割合。	H13の実績値24.6%とH21の実績値26.9%の増率である年0.2875ポイントから推計し、H32で30%をめざす。
19	最低居住面積水準未達率	総務省統計局「住宅・土地統計調査」による。	平成18年度策定の「住生活基本計画」(全国計画)において、早期に解消をめざすとしていることから、同様の考え方で設定したものをめざす。
19	景観づくりに参加する人の数	都市計画課景観担当室「私の好きな景観スポット」応募者数による。	目標値を前年度より4～5人の応募者増をめざす。
19	地区計画策定面積	都市計画課資料による。紙敷地区地区計画(51.0ha)、秋山地区地区計画(40.4ha)、関台地区地区計画(10.4ha)、高柳地区地区計画(2.2ha)、馬橋駅西口地区地区計画(0.9ha)。	地区計画は、基本的には住民の発意によって策定するが、地域住民が主体的にめざしたい地域づくりを実現化出来る柔軟な都市計画制度なので、市としても活用していきたいと考えている。後期基本計画期間内は年2haの増加をめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
20	道路のバリアフリー地区別完了率	道路のバリアフリー化整備地区 ÷ 道路のバリアフリー化対象地区 バリアフリー化対象地区とは「松戸市交通バリアフリー基本構想」における策定対象としてあげている地区。	現在着手している2地区の整備完了を踏まえ、次期重点整備地区として2地区が追加指定されると想定し、計4地区の整備完了をめざす。
20	鉄道駅のバリアフリー化率(ワンルート整備率)	ワンルート整備された駅 ÷ バリアフリー化対象駅 ワンルート整備とは、ホーム階から地上(改札を経由)までの段差をエレベーター等で解消し、車いす利用者などが円滑に移動できる経路を1駅に1経路確保すること。	鉄道事業者の行う駅のバリアフリー化に対し支援を続け、対象となる駅全てがワンルート整備されることをめざす。
20	鉄道の混雑率(緩行電車)	運輸政策研究機構発行「数字で見る鉄道」による。ピーク時(7:30~8:30)の混雑率。	鉄道の利便性向上のため、鉄道事業者へ運行本数の確保や編成数の増量を要望し、運輸政策審議会答申の長期目標である150%をめざす。
20	鉄道の混雑率(快速電車)	運輸政策研究機構発行「数字で見る鉄道」による。ピーク時(7:30~8:30)の混雑率。	鉄道の利便性向上のため、鉄道事業者へ運行本数の確保や編成数の増量を要望し、運輸政策審議会答申の長期目標である150%をめざす。
20	渋滞箇所数	建設総務課資料による。	現在施工している主1-25号(三矢小台)の工事が完了し、渋滞の解消が見込まれることから設定した値をめざす。
21	緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合(再掲)	市民意識調査による。「緑地・河川などの自然環境の満足度」という質問に対して、「十分満足している」、「まあまあ満足している」と回答した割合。	4人に1人が満足することをめざす。
21	流域整備面積率	河川清流課資料による。	現況の整備面積より189ha増をめざす。
21	BOD(75%)値(国分川水系)	環境保全課資料「環境の現状と対策」による。	真間川流域水循環系再生行動計画に基づく目標値(10mg/l以下)をめざす。
21	水質基準達成率(国分川水系BOD)	環境保全課資料「環境の現状と対策」による。	良好な水環境を日常的に確保するため、観測値全てが真間川流域水循環系再生行動計画に基づく目標値(10mg/l以下)をめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
21	BOD(75%)値(坂川水系)	環境保全課資料「環境の現状と対策」による。	清流ルネッサンスⅡ(第二期水環境改善緊急行動計画)に基づく目標値(5.0mg/ℓ以下)をめざす。
21	水質基準達成率(坂川水系BOD)	環境保全課資料「環境の現状と対策」による。	良好な水環境を日常的に確保するため、観測値全てが清流ルネッサンスⅡ(第二期水環境改善緊急行動計画)に基づく目標値(5.0mg/ℓ以下)をめざす。
21	河川利用イベントの参加者数	レンゲ祭り、コスモス祭り、親子が水辺で集う日、川に親しむ親子の集いの参加者数。	過去の結果を勘案して最も高い数値を上回ることをめざす。
21	下水道利用率(下水道利用者数/市内人口)	下水道維持課資料による。	下水道利用率、前年度に対して概ね1ポイントの増をめざす。
22	水道事業に満足している人の割合	水道部「松戸市水道事業に関するアンケート調査」による。	平成19年度(28.4%)より年1ポイントの向上をめざす。
22	浄・配水施設の更新率	浄・配水施設の主要設備の更新実績。	浄・配水施設の更新計画に基づき設定した値をめざす。
23	住み続けたいと思う人の割合	市民意識調査による。「あなたは、これからも松戸市に住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「住み続けたい」、「できることなら住み続けたい」と回答した割合。	21年度現状値に対して、5ポイント増をめざす。
23	行政サービスの改善度	市民意識調査による。「あなたは、全体として松戸市の行政サービスについて、どのように感じていますか」という質問に対して、「以前より非常に良くなっている」、「以前より多少良くなっている」と回答した割合。	「市民意識調査」(平成21年度)の結果より、「以前より多少悪くなっている5.2%、以前より非常に悪くなっている1.9%」をなくすことをめざす。
23	後期基本計画のめざそう値の達成率	めざそう値を達成した指標数 ÷ (全指標数 - 1) この指標を除くため、全指標数から1を除く。	計画書に掲載しているめざしたい将来像を実現するため、すべての指標について、めざそう値の達成をめざす。

政策	指標	出典・計算根拠	めざそう値(32年度)設定の考え方
23	行政情報入手手段に係るホームページの割合	市民意識調査による。「あなたは、松戸市の行政情報を主に何によって入手しているかお答えください」という質問に対して、「松戸市のホームページ」と回答した割合。	32年度で市民4人に1人がホームページから行政情報入手することをめざす。
23	インターネットを利用している人の割合	市民意識調査による。「あなたは、ご自身でインターネット(携帯電話によるネット利用を含む)を利用しますか」という質問に対して、「毎日のように利用している」、「時々利用している」、「たまに利用している」と回答した割合。	市の施策により変動する性質の指標ではないが、総務省の同様の調査では人口利用率で75%を上回っていることや、現状値が第3次実施計画の目標値設定時の想定に近付いていることから設定した値をめざす。
23	いきいきと働いている職員の割合	人事課「職員アンケート調査」による。	いきいきと働くことができている職員の割合を増やすことをめざす。
24	財政力指数	平成21年度地方交付税の算定結果による。	本市の過去の財政力指数の最高値をめざす。 (平成3年度 1.053)
24	経常収支比率	決算資料による。	今後の社会情勢から歳出構成を考慮すると、厳しい値であるが、高い目標を掲げ今後も適正な財政運営をめざす。
24	自主財源比率	決算資料による。	今後の経済情勢を考慮すると、厳しい値であるが、高い目標を掲げ、引き続き市税を中心に自主財源の確保をめざす。
24	将来負担比率	決算資料による。	健全な財政を維持しつつ活力ある松戸市とするため、まちづくりにも対応した値をめざす。